

日射熱取得率の調べ方

サッシ協会、メーカーの技術情報または「住宅の省エネルギー基準と評価方法 2024」から調べる方法

ここでは「住宅の省エネルギー基準と評価方法 2024」を紹介します。
(第6部 参考情報 6-035ページ～6-036ページ)

ガラスの垂直面日射熱取得率

ガラスの仕様			日射熱取得率 η_g		
			付属部材なし	紙障子	外付けブラインド
三層複層	2枚以上のガラス表面に Low-E 膜を使用した Low-E 三層複層ガラス	日射取得型	0.54	0.34	0.12
		日射遮蔽型	0.33	0.22	0.08
	Low-E 三層複層ガラス	日射取得型	0.59	0.37	0.14
		日射遮蔽型	0.37	0.25	0.10
	三層複層ガラス		0.72	0.38	0.18
二層複層	Low-E 二層複層ガラス	日射取得型	0.64	0.38	0.15
		日射遮蔽型	0.40	0.26	0.11
	二層複層ガラス		0.79	0.38	0.17
	単板ガラス 2 枚を組み合わせたもの ^(注)		0.79	0.38	0.17
単層	単板ガラス		0.88	0.38	0.19

注)「単板ガラス 2 枚を組み合わせたもの」は、中間部にブラインドが設置されたものを含むものとする。
※ 日射取得型、日射遮蔽型の区分については、JIS R3106 の夏期の日射熱取得率の値が 0.5 以上のものを「日射取得型」、0.5 未満のものを「日射遮蔽型」と判断する。なお、ガラスの層数、ガラスの厚み、中空層厚み、Low-E ガラスの配置、中空層の気体の種類等によらず、次に示す基本構成の Low-E 複層ガラスの日射熱取得率の値で日射区分を判断してもよい。(以下、同じ。)
基本構成の Low-E 複層ガラス: [室外側]Low-E ガラス (3mm) + 空気層 (12mm) + 透明フロート板ガラス (3mm) [室内側]

47

日射熱取得率の調べ方

開口部の垂直面日射熱取得率 (建具の仕様により異なりますので注意してください)

・木製建具又は樹脂製建具

ガラスの仕様			日射熱取得率 η_d		
			付属部材なし	紙障子	外付けブラインド
三層複層	2枚以上のガラス表面に Low-E 膜を使用した Low-E 三層複層ガラス	日射取得型	0.39	0.24	0.09
		日射遮蔽型	0.24	0.16	0.06
	Low-E 三層複層ガラス	日射取得型	0.42	0.27	0.10
		日射遮蔽型	0.27	0.18	0.07
	三層複層ガラス		0.52	0.27	0.13
二層複層	Low-E 二層複層ガラス	日射取得型	0.46	0.27	0.11
		日射遮蔽型	0.29	0.19	0.08
	二層複層ガラス		0.57	0.27	0.12
	単板ガラス 2 枚を組み合わせたもの ^(注)		0.57	0.27	0.12
単層	単板ガラス		0.63	0.27	0.14

注)「単板ガラス 2 枚を組み合わせたもの」は、中間部にブラインドが設置されたものを含むものとする。

- ・木と金属の複合材料製建具
- ・樹脂と金属の複合材料製建具
- ・金属製熱遮断構造建具
- ・金属製建具

ガラスの仕様			日射熱取得率 η_d		
			付属部材なし	紙障子	外付けブラインド
三層複層	2枚以上のガラス表面に Low-E 膜を使用した Low-E 三層複層ガラス	日射取得型	0.43	0.27	0.10
		日射遮蔽型	0.26	0.18	0.06
	Low-E 三層複層ガラス	日射取得型	0.47	0.30	0.11
		日射遮蔽型	0.30	0.20	0.08
	三層複層ガラス		0.58	0.30	0.14
二層複層	Low-E 二層複層ガラス	日射取得型	0.51	0.30	0.12
		日射遮蔽型	0.32	0.21	0.09
	二層複層ガラス		0.63	0.30	0.14
	単板ガラス 2 枚を組み合わせたもの ^(注)		0.63	0.30	0.14
単層	単板ガラス		0.70	0.30	0.15

注)「単板ガラス 2 枚を組み合わせたもの」は、中間部にブラインドが設置されたものを含むものとする。

48

日射遮蔽対策の方法

● 付属部材を設ける方法

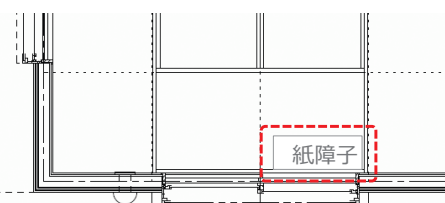
- ・開口部の付属部材とは、紙障子、外付けブラインド、その他これらと同等以上の日射遮蔽性能を有し、**開口部に建築的に取り付けられるもの**をいいます。レースカーテン、内付けブラインド等の着脱が容易なものや、竣工引渡し時に設置可否の確認が困難な部材は対象外です。
- ・開口部の付属部材を評価する場合は、申請図書に**付属部材の位置と種類を明示**してください。

開口部の日射熱取得率の例（前出）

木と金属の複合材料製建具又は樹脂と金属の複合材料製建具、金属製熱遮断構造建具又は金属製建具

ガラスの仕様			日射熱取得率 η_d		
			付属部材なし	紙障子	外付けブラインド
三層複層	2枚以上のガラス表面に Low-E 膜を使用した Low-E 三層複層ガラス	日射取得型	0.43	0.27	0.10
		日射遮蔽型	0.26	0.18	0.06
	Low-E 三層複層ガラス	日射取得型	0.47	0.30	0.11
		日射遮蔽型	0.30	0.20	0.08
	三層複層ガラス		0.58	0.30	0.14
二層複層	Low-E 二層複層ガラス	日射取得型	0.51	0.30	0.12
		日射遮蔽型	0.32	0.21	0.09
	二層複層ガラス		0.63	0.30	0.14
	単板ガラス 2 枚を組み合わせたもの ^(注)		0.63	0.30	0.14
単層	単板ガラス		0.70	0.30	0.15

注)「単板ガラス 2 枚を組み合わせたもの」は、中間部にブラインドが設置されたものを含むものとする。



付属部材の図面への記載例

49

開口部の確認方法の補足

- 2022年11月に開口部の熱貫流率の表記が変わりました。

少数点第2位 → 少数第1位

Web やカタログ等では、小数点第 2 位まで表示（例えば 2.33 等）となっている場合がありますが、**小数点第 2 位を四捨五入した値**に、読み替えても差し支えありません。

例えば 2.33→2.3等

- 2022年11月に窓の日射熱取得率の基準が追加されました。

ガラスの日射熱取得率 → ガラスの日射熱取得率 と 窓の日射熱取得率
のどちらで適合判定を行っても良い。

- 熱貫流率は、窓は建具とガラスの組合せ、ドアは枠と戸の組合せに基づく熱貫流率 U を確認してください。

- 仕様が複数ある場合は、全ての仕様について確認し、**熱貫流率 U が大きい方**、日射遮蔽対策は窓の**日射熱取得率 η_d が大きい仕様**を選択してください。ただし、窓の面積が住宅の床面積の合計に 0.02 を乗じた値以下となるものを除く（次ページ）。

50

開口部の確認方法の補足

- 熱貫流率において、窓の面積が住宅の床面積の合計に**0.02を乗じた値以下**となるもの（当該窓2以上となる場合はその合計面積）は**適否確認を除外**できます。

【計算例】

床面積 120㎡

W0.4m×H0.6m=0.24㎡ の窓2つ（熱貫流率の基準を満たしていない）は適否確認を除外できるか？

$0.24\text{㎡} \times 2 = 0.48\text{㎡} \leq 120\text{㎡} \times 2\% = 2.4\text{㎡} \rightarrow$ 除外できる

1つの窓が2%以内ではなく、緩和したい窓の面積の合計が床面積の2%以内です。

- 「日射遮蔽対策」においては、**天窓以外の開口部**で、開口部の面積（当該開口部が2以上の場合はその合計の面積）が住戸の床面積に**0.04を乗じた数値以下**となるものを**適否確認から除外**することができます。（計算方法は熱貫流率の場合と同じ）

（仕様例：5～7地域）

省エネ基準適合サッシは、金属製建具 Low-E 二層複層ガラスA6 $U=4.07[\text{W}/(\text{㎡} \cdot \text{K})]$ 、窓の日射熱取得率 $\eta=0.51$

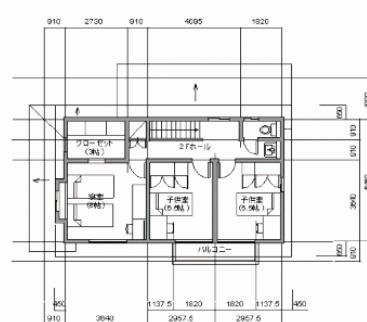
↓

金属製建具 二層複層ガラスA6 $U=4.65[\text{W}/(\text{㎡} \cdot \text{K})]$ 、窓の日射熱取得率 $\eta=0.63$ で計画できる。

51

（参考）仕様基準と標準計算ルートの断熱仕様比較

部位	断熱仕様	
	仕様基準	標準計算ルート
天井	グラスウール断熱材 HG16-38 厚155	グラスウール断熱材 HG16-38 厚155
外壁	グラスウール断熱材 高性能品 HG16-38 厚105	グラスウール断熱材 高性能品 HG16-38 厚105
床	（大引間に断熱） 押出法ポリスチレンフォーム 3種bA 厚65	（大引間に断熱） 押出法ポリスチレンフォーム 3種bA 厚65
基礎 （土間）	外気側 押出法ポリスチレンフォーム 3種bA 厚50	押出法ポリスチレンフォーム 3種bA 厚50
	床下側 押出法ポリスチレンフォーム 3種bA 厚20	押出法ポリスチレンフォーム 3種bA 厚15
開口部	ドア 枠：金属製 戸：ハニカムフラッシュ構造（ガラスなし） 2 ロック、堀込み錠、ポストなし	枠：金属製 戸：ハニカムフラッシュ構造（ガラスなし） 2 ロック、堀込み錠、ポストなし
	サッシ <u>アルミサッシ Low-E 複層ガラス（A6）</u> （ひさし・軒、付属部材：なし）	和室以外：アルミサッシ+二層複層ガラス（A6）（付属部材：なし） 和室：アルミサッシ+二層複層ガラス（A6）（付属部材：紙障子）
性能値（基準値）	熱抵抗の基準	$UA=0.79[\text{W}/(\text{㎡} \cdot \text{K})]$ (0.87)



建設地：6地域
構法：木造軸組構法



6地域モデルプラン

52

Step5 設備を確認する

確認が必要な設備機器は以下の4種です。

- 暖冷房設備
- 換気設備
- 給湯設備
- 照明設備

53

設備機器の確認方法：暖冷房設備の基準

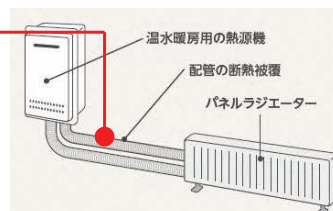
（注意！）仕様ルートで評価できる機器は以下のみです。

何れかに該当が必要です

☐	住戸全体を暖冷房
☐	ダクト式セントラル空調機で、ヒートポンプを熱源とするもの
☐	居室のみを暖冷房
	暖房と冷房の両方について、以下のいずれかの設備機器であることを確認してください。 一部の居室に暖冷房設備機器を設置しない場合は、暖冷房設備機器を設置する居室だけで確認してください。
☐	パネルラジエーターで、①～③のいずれかを熱源とし（選択していただく）かつ配管に断熱被覆があるもの → 「配管の断熱被覆」
☐	① 石油潜熱回収型温水暖房機【エコフィール】の熱効率 83.0%以上(4地域)、87.8%以上(5～7地域)のもの
☐	② ガス潜熱回収型温水暖房機【エコジョーズ】の熱効率 78.9%以上(4地域)、82.5%以上(5～7地域)のもの
☐	③ 電気ヒートポンプ温水暖房機（フロン系冷媒に限る）
☐	ルームエアコンディショナーで、エネルギー消費効率の区分が（い）又は（ろ）のもの
☐	FF暖房機の熱効率 86.0% 以上のもの（4地域に限る）
☐	冷房
☐	ルームエアコンディショナーで、エネルギー消費効率の区分が（い）又は（ろ）のもの
☐	設置しない
	すべての居室に暖冷房設備機器を設置しない場合は、「設置しない」を選択してください。 入居後に設置する場合やまだ機器が決まっていない場合は、「設置しない」を選択してください。

ヒートポンプ式熱源機等により、空調された空気をダクトにより住戸内の居室等へ供給し、住戸内の全ての居室及び非居室を空調するように計画されたシステム。
マルチタイプ（室外機 1 台に対して接続される室内機の数2台以上）の空調機ではありません。

一部屋だけ暖冷房を設置した場合も該当します。



FF暖房機は4地域のみ

「設置しない」の判断

- ・すべての居室に暖冷房設備機器を設置しない場合
- ・入居後に設置する場合やまだ機器が決まっていない場合
- ・完了検査時点で暖冷房設備の設置が行われていない場合

54

設備機器の確認方法：暖冷房設備の補足説明

- ルームエアコンディショナーの（い）、（ろ）はWebやカタログで調べることができます。

☒ ルームエアコンディショナーで、エネルギー消費効率の区分が（い）又は（ろ）のもの

☐ FF 暖房機

☒ **冷房** ルームエアコンディショナーで、エネルギー消費効率の区分が（い）又は（ろ）のもの

調べ方の例（他の設備も掲載してあります）

一般社団法人 住宅性能評価・表示協会
 温熱・省エネ設備機器ポータルサイト [住宅版]

トップページ/カテゴリ一覧/一次エネルギー消費量・暖房設備・ルームエアコンディショナー・ルームエアコンディショナー/

事業者リンク一覧
 ご覧になりたい事業者等の名称をクリックしてください。
 事業者の案内ページが別ウィンドウで開きます。

1. ダイキン工業株式会社
2. パナソニック/パナソニック・ハウジングソリューションズ株式会社
3. 三菱電機株式会社
4. シャープ株式会社
5. 株式会社LIXIL

- ・定格冷房エネルギー消費効率の区分 から（い）または（ろ）のエアコンを選定します。

- ・暖房運転でも、定格冷房エネルギー消費効率で確認します。

設備 ルームエアコンディショナーのJIS B 8615-1 に基づく性能は以下の通りです。

名称	型番	冷房 定格能力 (W)	冷房定格 消費電力 (W)	定格冷房 能力の区分	定格冷房エネルギー 消費効率の区分	性能確認 方法の 区分	区分Aである こと証する 認証マーク等
壁掛けタイプ	CS-UX253D2	2,500	445	2.2kWを超え2.5kW以下	い	A	
壁掛けタイプ	CS-UX283D2	2,800	510	2.5kWを超え2.8kW以下	い	A	
壁掛けタイプ	CS-UX403D2	4,000	800	3.6kWを超え4.0kW以下	い	A	
壁掛けタイプ	CS-UX563D2	5,600	1,480	5.0kWを超え5.6kW以下	い	A	
壁掛けタイプ	CS-UX633D2	6,300	1,780	5.6kWを超え6.3kW以下	い	A	
壁掛けタイプ	CS-UX713D2	7,100	2,320	6.3kWを超える	い	A	
壁掛けタイプ	CS-TX223D	2,200	425	2.2kW以下	い	A	
壁掛けタイプ	CS-TX253D	2,500	500	2.2kWを超え2.5kW以下	い	A	
壁掛けタイプ	CS-TX283D2	2,800	580	2.5kWを超え2.8kW以下	い	A	
壁掛けタイプ	CS-TX403D2	4,000	1,010	3.6kWを超え4.0kW以下	ろ	A	

（い）と（ろ）は適合
（は）は不適合

55

設備機器の確認方法：暖房設備の補足説明

- 複数の居室に性能の異なるエアコンが設置している場合

下表において評価の優先順位が高い（若い番号）エネルギー消費効率の区分を選択します。

優先順位	区分
1	区分（は）
2	区分（ろ）
3	区分（い）

（は）は不適合なので、仕様ルートで暖房設備を評価できません。Webプログラムによって評価してください。

- 複数の居室または1つの居室に複数の異なる暖房設備を設置する場合

全ての暖房設備が仕様規定に適合する必要があります。その上で下表の暖房設備機器等の評価の優先順位が高い（若い番号）暖房設備機器等を選択します。

評価の優先順位が高い暖房設備が、仕様規定における暖房設備に該当しない場合は仕様ルートで暖房設備を評価できません。

優先順位	暖房設備機器等
1	電気蓄熱暖房器
2	電気ヒーター床暖房
3	ファンコンベクター
4	ルームエアコンディショナー付温水床暖房機
5	温水床暖房
✓ 6	FF 暖房機
✓ 7	パネルラジエーター
✓ 8	ルームエアコンディショナー

✓：仕様規定で評価できる暖房設備

（例1）4地域、暖房設備にエアコンとFF暖房機が設置してある場合
 左の表より、優先順位は
 FF暖房機 → 6
 エアコン → 8
 よって、FF暖房機で暖房設備を評価する

（例2）温水床暖房とエアコンが設置してある場合
 左の表より、評価の優先順位は
 温水床暖房 → 5
 エアコン → 8
 温水床暖房となるが、仕様規定で評価できないので、Webプログラムによって評価してください

56

設備機器の確認方法：換気設備の基準

(注意！) 仕様ルートで評価できる機器は以下のみです。

何れかに該当が必要です

- ☐ ダクト式第一種換気設備（熱交換なし）で、ダクト内径が75 mm以上で、かつDCモーター（直流）のもの
- ☐ ダクト式第二種 又は 第三種換気設備で、ダクト内径が75 mm以上のもの
- ☐ 壁付け式第二種 又は 第三種換気設備のもの
- ☐ 比消費電力が $0.3[\text{W}/(\text{m}^3/\text{h})]$ 以下の換気設備（熱交換換気設備を採用する場合にあっては、比消費電力を有効換気量率で除した値）

←ガイドブックに追記

ダクト式と壁掛け式の判別方法

- ・ダクト式とは換気設備に長さ1 m以上のダクトを接続するものです。
- ・1 m以上のダクトを接続せず、外壁に設置するパイプ用ファン等を「壁付け式」といいます。

比消費電力の計算式

$$\text{比消費電力} = \frac{\text{全般換気設備の消費電力} [\text{W}]}{\text{全般換気設備の設計風量} [\text{m}^3/\text{h}]}$$

57

設備機器の確認方法：給湯設備

(注意！) 仕様ルートで評価できる機器は以下のみです。

何れかに該当が必要です

- ☐ 石油潜熱回収型給湯機【エコフィール】のモード熱効率81.3%以上(4地域)、77.8%以上(5～7地域)のもの
- ☐ ガス潜熱回収型給湯機【エコジョーズ】のモード熱効率83.7%以上(4地域)、78.2%以上(5～7地域)のもの
- ☐ 電気ヒートポンプ給湯機【エコキュート】のJIS効率2.9以上(4地域のみ、5～7地域は問わず)のもの

- ・潜熱回収型ではないものでも、モード熱効率が規定の効率以上であれば評価できます。
- ・4地域と5～7地域では熱効率等の基準が異なりますので注意してください。

58

設備機器の確認方法：給湯設備の補足

- 浴室等（浴室その他浴槽又は身体の清浄を目的とした設備を有する室をいいます）、台所及び洗面所がない場合は、給湯設備の仕様基準の規定は適用しません。評価対象外です。
- モード熱効率（4人世帯における標準的な1日の給湯パターン（標準使用モード）で断続運転した際の熱効率のこと）は、石油給湯機、ガス給湯機とも、JIS S 2075（家庭用ガス・石油温水機器のモード効率測定法）に定められた測定方法に基づく値にて判断してください。

ガス潜熱回収型の製品仕様の例

版番	商品シリーズ名	熱源機の種類	熱源機の種類	ふろ機能の種類	暖房部熱効率	給湯部 効率	
						モード熱効率	エネルギー消費効率
1	RFS-E2004A(A)	給湯専用型	ガス潜熱回収型給湯器	ふろ給湯器(追焚あり)	—	91.5	—
1	RFS-E2004SA(A)	給湯専用型	ガス潜熱回収型給湯器	ふろ給湯器(追焚あり)	—	91.5	—
1	RFS-E2004SA(A)-EG	給湯専用型	ガス潜熱回収型給湯器	ふろ給湯器(追焚あり)	—	91.5	—
1	RFS-E2004SA(A)-TS	給湯専用型	ガス潜熱回収型給湯器	ふろ給湯器(追焚あり)	—	91.5	—
1	RFS-E2008A	給湯専用型	ガス潜熱回収型給湯器	ふろ給湯器(追焚あり)	—	92.5	—
1	RFS-E2008A(A)	給湯専用型	ガス潜熱回収型給湯器	ふろ給湯器(追焚あり)	—	92.5	—
11	RFS-E2008A(B)	給湯専用型	ガス潜熱回収型給湯器	ふろ給湯器(追焚あり)	—	92.5	—
1	RFS-E2008SA	給湯専用型	ガス潜熱回収型給湯器	ふろ給湯器(追焚あり)	—	92.5	—
1	RFS-E2008SA(A)	給湯専用型	ガス潜熱回収型給湯器	ふろ給湯器(追焚あり)	—	92.5	—

- エコキュートは、二酸化炭素(CO₂)が冷媒として使用されていることを確認してください。また、1～4地域はJIS効率（ふろ熱回収機能を使用しない場合の年間給湯保温効率又は年間給湯効率）の指定がありますが、5～7地域には指定はありません。

（参考情報）

年間給湯保温効率とは、フルオートタイプのエコキュートが対象

年間給湯効率は、セミオートまたは給湯専用のエコキュートが対象

59

設備機器の確認方法：照明設備の基準

（注意！）仕様ルートで評価できる機器は以下のみです。

必須条件



非居室の全ての照明に、LED 又は 蛍光灯 を設置している。
居室の照明設備については、確認不要です。

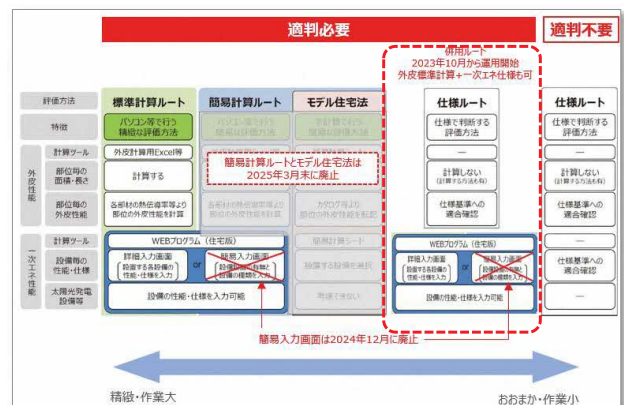
- ・非居室とは「浴室、トイレ、洗面所、玄関（玄関ポーチの照明も含む）、ホール、収納など」をいいます。
- ・居室の照明設備については問いません。（評価不要）
- ・完了検査時点で該当する照明設備の設置が行われない場合や入居者設置などは、その旨を設計図書等に記載すれば仕様基準に適合するものと判断することができます。



60

外皮・一次エネ消費性能とも仕様基準で適合する方法のまとめ

- 断熱構造とする部位の全てが熱抵抗Rの基準値以上を満たす必要があります。
- 全ての開口部の熱貫流率が基準値以下を満たす必要があります。ただし、窓の面積が住宅の床面積の合計に0.02を乗じた値以下となるものを除く。
- 5～7地域では、すべての開口部に日射遮蔽対策の基準を満たす必要があります。ただし、窓の面積が住宅の床面積の合計に0.04を乗じた値以下となるものを除く。
- 暖冷房、換気、給湯、照明設備は、すべて仕様基準を満たす必要があります。ただし、浴室等、台所及び洗面所がない場合は、給湯設備の仕様基準の規定は適用しません。
- 暖冷房、換気、給湯、照明設備は、仕様基準に記載している以外の設備は評価できません。
- 仕様基準は、住宅ローン減税、住宅性能表示制度、長期優良住宅、BELSの基準にも対応しています。
- 外皮性能は適合したが、仕様基準に記載がない設備を評価する場合は、
外皮仕様ルート + 一次エネWebプログラム
による方法を使ってください。



61

外皮性能を仕様基準
一次エネルギー消費性能を
Webプログラムで適合する方法

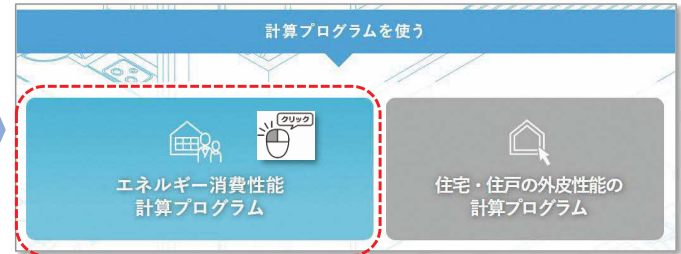
62

Webプログラムの使い方

「住宅に関する省エネルギー基準に準拠したプログラム」をWebプログラムと呼んでいます。

<https://house.lowenergy.jp/>

(注意) 以下の画面は、2024年12月公開版です。



(次ページへ)

63

Webプログラムの使い方

(注意) 以下の画面は、2024年12月公開予定版です。



「仕様基準により外皮性能を評価する」を選択すると、
外皮に関する入力（下記）が非表示(入力不要)になります。

2 ①で「当該住戸の外表面積を用いて外皮性能を評価する」を選択した場合、外皮の仕様を入力して下さい。	
外皮面積の合計 ②	307.51 m ² (小数点以下2桁)
外皮平均熱貫流率 (U _a) ③	0.87 W/m ² K (小数点以下2桁)
冷房期の平均日射熱取得率 (η _{AC}) ④	2.8 (小数点以下1桁)
暖房期の平均日射熱取得率 (η _{AH}) ⑤	4.3 (小数点以下1桁)

64

外皮仕様＋一次エネWebプログラムを使う場合に知っておくこと

外皮を仕様基準で評価する場合には、Webプログラムの「外皮面積の合計」「外皮平均熱貫流率 U_A 」「冷房期の平均日射熱取得率 (η_{AC})」「暖房期の平均日射熱取得率 (η_{AH})」の入力は必要ありません。

外皮性能は、下表数値（省エネ基準の基準値）により計算されます。

	地域の区分	外皮平均熱貫流率 U_A	暖房期の平均日射熱取得率 (η_{AH})	冷房期の平均日射熱取得率 (η_{AC})
仕様基準	1	0.46	2.5	1.9
	2	0.46	2.3	1.9
	3	0.56	2.7	2.0
	4	0.75	3.7	2.7
	5	0.87	4.5	3.0
	6	0.87	4.3	2.8
	7	0.87	4.6	2.7
	8	3.32	—	6.7

外皮の断熱性能を向上しても、一次エネルギー消費量の計算（断熱性能の向上分）には反映されません。

65

外皮仕様＋一次エネWebプログラムを使う場合に知っておくこと

主たる居室、その他の居室、合計（床面積の合計）の面積計算が必要です。申請時には面積表等が必要です。

床面積 ?	主たる居室	29.81	m ² (小数点以下2桁)
	その他の居室	51.35	m ² (小数点以下2桁)
	合計	120.08	m ² (小数点以下2桁)

←Webプログラムの入力画面

分類	床面積の計算の方法
① 主たる居室 (m ²)	主たる居室（リビング、ダイニング、キッチン等）の床面積の合計。
② その他の居室 (m ²)	①以外の居室（寝室、子ども室、和室等）の床面積の合計。
③ 非居室 (m ²)	①および②以外の室（浴室、トイレ、洗面所、廊下、玄関、クローゼット、納戸等）の床面積の合計。ただし、収納が①または②に付随している場合は、付随する居室の一部としてみなし、①または②として床面積の計算を行うことも可能とする。
④ 合計 (m ²)	①＋②＋③（小数点第三位を四捨五入して小数点以下二桁で入力）

床面積計算の特例

風除室 サンルーム	熱的境界の外とする場合の風除室およびサンルームの床面積は、床面積に算入しない。
出窓	外壁面からの突出が 500 mm 未満、かつ、下端の床面からの高さが 300 mm 以上である腰出窓の面積は、床面積に算入しない。
小屋裏収納 床下収納	熱的境界の内側に存する小屋裏収納、床下収納のうち、建築基準法で定める延べ面積に算入されない小屋裏収納および床下収納の面積は、床面積に算入しない。
物置等	居室に面する部位が熱的境界となっている物置、車庫その他これらに類する空間（以下、「物置等」という。）の床面積は、床面積に算入しない。



階	部屋名	主たる居室	その他の居室	非居室
1階	玄関			○
	LD	○		
	キッチン	○		
	和室		○	
2階	ホール・階段・収納			○
	浴室・洗面・トイレ			○
	寝室		○	
	子供部屋中		○	
3階	子供部屋東		○	
	クローゼット			○
	ホール・階段・トイレ			○
合計		29.81	51.35	38.92
		床面積合計 = 120.08		

66

Webプログラムを使うメリット

設備機器の選択肢が増える 【暖房設備】

仕様基準

☐ 住戸全体を暖冷房
→ ☐ ダクト式セントラル空調機で、ヒートポンプを熱源とするもの

☐ 居室のみを暖冷房
暖房と冷房の両方について、以下のいずれかの設備機器であることを確認してください。一部の居室に暖冷房設備機器を設置しない場合は、暖冷房設備機器を設置する居室だけで確認してください。

暖房

☐ パネルラジエーターで、①～③のいずれかを熱源とし（選択してください）かつ配管に断熱被覆があるもの → 「配管の断熱被覆」はP.23を参照

- ☐ ① 石油潜熱回収型温水暖房機【エコフィール】の熱効率83.0%以上(4地域)、87.8%以上(5～7地域)のもの
- ☐ ② ガス潜熱回収型温水暖房機【エコジョーズ】の熱効率78.9%以上(4地域)、82.5%以上(5～7地域)のもの
- ☐ ③ 電気ヒートポンプ温水暖房機（フロン系冷媒に限る）

☐ ルームエアコンディショナーで、エネルギー消費効率の区分が（い）又は（ろ）のもの

☐ FF暖房機の熱効率86.0%以上のもの（4地域に限る）

冷房

☐ ルームエアコンディショナーで、エネルギー消費効率の区分が（い）又は（ろ）のもの

Webプログラム

暖房設備機器または放熱器の種類

☒ ルームエアコンディショナー

☐ FF暖房機

☐ 電気蓄熱暖房器

☐ 電気ヒーター床暖房

☐ ルームエアコンディショナー付温水床暖房機

温水暖房

☐ 温水床暖房

☐ パネルラジエーター

☐ ファンコンベクター

☐ 温水床暖房（併用運転に対応）

☐ その他の暖房設備機器

☐ 暖房設備機器または放熱器を設置しない

- (例) ・設備の効率は問わない
・床暖房（電気、温水）が評価できる
・薪ストーブやペレットストーブが評価できる
（その他の暖房設備として）

67

Webプログラムを使うメリット

設備機器の選択肢が増える 【給湯設備】

仕様基準

給湯設備 以下のいずれかの設備機器であることを確認し、
■ にチェックをしてください。

☐ 石油潜熱回収型給湯機【エコフィール】のモード熱効率81.3%以上(4地域)、77.8%以上(5～7地域)のもの

☐ ガス潜熱回収型給湯機【エコジョーズ】のモード熱効率83.7%以上(4地域)、78.2%以上(5～7地域)のもの

☐ 電気ヒートポンプ給湯機【エコキュート】のJIS効率2.9以上(4地域のみ、5～7地域は問わず)のもの

Webプログラム

給湯専用型給湯機

☐ ガス従来型給湯機

☒ ガス潜熱回収型給湯機

☐ 石油従来型給湯機

☐ 石油潜熱回収型給湯機

☐ 電気ヒーター給湯機

☐ 電気ヒートポンプ給湯機（CO2冷媒またはR32冷媒）（太陽熱利用設備を使用しないもの）

☐ 電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯機

給湯・温水暖房一体型

☐ ガス従来型給湯温水暖房機

☐ ガス潜熱回収型給湯温水暖房機

☐ 石油従来型給湯温水暖房機

☐ 石油潜熱回収型給湯温水暖房機

☐ 電気ヒーター給湯温水暖房機

☐ 電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯温水暖房機（暖房部：電気ヒートポンプ・ガス | 給湯部：ガス | 貯湯タンク：あり）

☐ 電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯温水暖房機（暖房部：電気ヒートポンプ・ガス | 給湯部：ガス | 貯湯タンク：なし）

☐ 電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯温水暖房機（暖房部：電気ヒートポンプ・ガス | 給湯部：電気ヒートポンプ・ガス）

☐ 電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯温水暖房機（暖房部：ガス | 給湯部：電気ヒートポンプ・ガス）

☐ コージェネレーション

☐ その他の給湯設備機器

☐ 給湯設備機器を設置しない

- (例) ・設備の効率は問わない
・従来型給湯器が評価できる
・電気ヒートポンプ・ガス瞬間式併用型給湯温水暖房機のようなハイブリッド設備が評価できる

68